



中国語を母語とする日本語学習者の発話における高頻度漢語動名詞の使用実態：「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を用いた調査

陳, 迪

(Citation)

統計数理研究所共同研究リポート, 465:1-22

(Issue Date)

2023-03-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100479378>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100479378>



中国語を母語とする日本語学習者の発話における

高頻度漢語動名詞の使用実態

—「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を用いた調査—

陳 迪(神戸大学院生)

chendi24410@gmail.com

Chinese Learners' Use of High-frequency Sino-Japanese Verbal Nouns in
Speeches

—A Study Based on the I-JAS Corpus—

CHEN, Di (Kobe University, Graduate Student)

概要

本研究は、大規模な日本語学習者コーパスを用い、様々な習熟度段階にある中国語を母語とする日本語学習者の話し言葉における漢語動名詞の使用実態を明らかにすることを目指す。具体的には、(a)頻度(使用量・語彙多様性)、(b)語彙難度、(c)上位語、(d)特徴語という観点で、中国語を母語とする日本語学習者、および、韓国語を母語とする学習者・英語を母語とする学習者の漢語動名詞使用はどのような特徴を持っているのか、という4つのRQを設定した。それぞれのRQについて、(1)習熟度はどのように影響しているのか、(2)母語はどのように影響しているのか、という2つの観点から考察を行う。その結果、(i)中国語を母語とする学習者は漢字知識を持っているが、高頻度漢語動名詞の使用にはまだ多くの問題が存在し、一定の日本語レベルの学習者であってもそれらの問題が継続している可能性があること、(ii)異なる母語にある学習者の漢語動名詞使用には細かい差異が存在するが、漢語動名詞をひとまとめして量的側面(頻度・語彙難度)に限って考えた場合には、見られる特徴の多くは共通して認められること、が示された。

キーワード

漢語動名詞、学習者コーパス、話し言葉

1. はじめに

漢語動名詞(Sino-Japanese verbal nouns)とは、「努力」「勉強」のように、形態面において名詞的特徴を、統語面において動詞的特徴を持ち、「する」がついてサ変動詞になり得る、漢字で表記される字音語のことである。漢語動名詞は日本語語彙に占める比率が高く、一般的に高頻度な

ものである。現代日本語における高頻度、かつ、広範囲で使用する漢語動名詞を確認するため、陳(2022, in press)は、大規模日本語母語話者の書き言葉・話し言葉コーパスを利用し、重要漢語動名詞 200 語を抽出した。

漢語動名詞の習得は日本語教育において特に重要な課題の 1 つである。中国語を母語とする学習者(L1 Chinese learners of Japanese、以下 CLJ)は母語において豊富な漢字知識を持っており、漢語動名詞の習得が容易であるように思える。実際、文化庁(1978)は 3 種類の初級・中級の日本語教科書(計 10 冊)より抽出した 2,000 語に基づいて計量的調査した結果、日中両言語において意味が共通する同義の語彙(S:Same)は全体の約 67%、類義の語彙(O:Overlap)は約 4%、両者あわせて全体の約 71%になることが報告されている。また、陳(2002)は、文化庁(1978)・国立国語研究所(1982)・国立国語研究所(1984)・『日本語能力試験出題基準』(国際交流基金、1994)という 4 冊の資料より抽出した 4,600 語と中国大陆の中国語において対応する 2 字漢語の辞書的意味実態を調べた結果、S 語は全体の約 54.5%、O 語は全体の 14.9%を占めると述べている。しかし、これらのことは CLJ の漢語動名詞の習得が容易であることを意味しない。

河住(2005)は、CLJ の日本語漢語使用においては、中国語語彙からの影響と日本語漢語に対する認識不足によって多くの問題が生じうると述べた。また、李(2016)は CLJ の漢語動名詞に対する意識を調査したが、その結果、多くの CLJ が日本語の漢語動名詞の運用能力(知識面と運用面)に自信を持っておらず、漢語動名詞についての指導を受けた経験があるものの、指導の効果は希薄であることも明らかになった。

こうした点をふまえれば、実際のデータを根拠として、CLJ の漢語動名詞使用の実態を明らかにする必要があると思われる。そこで、本研究では、大規模学習者コーパスを用い、漢語動名詞の使用に関わる諸相のうち、最も基礎的な頻度(使用量・語彙多様性)、語彙難度、上位語、特徴語の 4 観点に注目し、CLJ およびそのほかの学習者データと日本語母語話者データを比較することによって、CLJ の発話における高頻度漢語動名詞の使用実態の解明を目指すこととする。

2. 先行研究

学習者の漢語動名詞使用特性に関する研究の多くが学習者の意識調査や誤用パターンの分析・分類を行ってきたが、CLJ の高頻度漢語動名詞使用に関する研究は必ずしも多くない。ここでは、主要研究として、李(2016)、鄧(2020)、張(2021)の 3 つの研究を概観する。

まず、李(2016)は、6 種の学習者データ(「作文対訳 DB」「なたね」「日本語学習者作文コーパス」「日本語学習者言語コーパス」「華東政法大学作文コーパス」と、中国の 2 大学で独自に収集したコーパス)と母語話者データ(「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、BCCWJ)を使い、CLJ と日本語母語話者(JNS)の漢語動名詞使用を比較した。その結果、(1) 使用量は CLJ が多いこと、(2) 種類数も CLJ が多いこと、しかし、(3) 日常動詞の使用は CLJ のほうが少ないこと、などがわかった。

次に、鄧(2020)は「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(I-JAS)の「対話」タスクを用い、CLJ、韓国語を母語とする学習者(KLJ)、英語を母語とする学習者(ELJ)

および JNS による高頻度漢語の使用状況を 4 観点（総語数・総種類数・語彙難度・上位語）で調査した。この研究では、漢語の知識を有する CLJ は JNS より日本語の漢語を多用するという仮説を検証したものであったが、調査の結果、CLJ は、他の学習者と同様、JNS より漢語使用が少ないことが明らかになった。また、習熟度の上昇により、CLJ の漢語使用量は増加していたが、JNS の水準には達していなかった。

最後に、張（2021）は「日本語学習者書き言葉コーパス」（日语学習者书面語語料庫）を用い、中級（大学 2 年次第 1 学期）と上級（大学 3 年次第 1 学期）の CLJ が産出した漢語動名詞の使用実態を調査・分析している。その結果、(1) 総語数は中級<上級であること、(2) 種類数は中級>上級であること、(3) 難易度は中級≒上級であること、(4) 中級・上級とも、誤用タイプとしては「非文法的な文の産出」、「中国語の使用」が見られること、などが確認できた。誤用の主因としては、漢語動名詞の文法知識、日本語の理解、日中両言語間のずれに対する気づき、などの欠如が指摘されている。

以上で概観した研究は、いずれも、CLJ の漢語動名詞の使用実態とその特徴・原因を詳細に調査・分析したもので重要な価値を有している。一方で、(1) 書き言葉のみに注目するものが多く、学習者の発話における漢語動名詞の使用実態に関する調査が少ないこと、(2) 習熟度の影響を調査した研究が少ないこと、(3) CLJ のみを分析したものが多く、様々な母語の学習者を比較した調査が少ないこと、といった課題も残される。そこで本研究では、(1') 大規模な学習者の発話コーパスを分析し、(2') コーパスに含まれる 2 種のテストスコアをふまえた厳密な習熟度別比較を行い、あわせて、(3') JNS だけでなく、KLJ と ELJ との比較を目指す。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的と RQ

本研究は、大規模な学習者コーパスを用い、異なる習熟度にある CLJ・KLJ・ELJ と JNS の発話における漢語動名詞の使用実態を量的観点から調査する。分析の観点は、漢語動名詞の使用に関わる諸相のうち、最も基礎的な、(a) 頻度系指標（使用量・語彙多様性）、(b) 語彙難度、(c) 上位語・重要語、(d) 特徴語の 4 観点とする。このうち、(a)～(c)については、(母語を平均した上で) 習熟度の差を確認した後、(習熟度を平均した上で) 母語の差を確認する。(d)については、習熟度・母語・個別の漢語動名詞の 3 者の関係性のモデリングを行う。

以上をふまえ、以下の 4 つの RQ を設定した。

RQ1 習熟度・母語は頻度系指標（語彙使用量・語彙多様性）に影響するか？

RQ2 習熟度・母語は語彙難度に影響するか？

RQ3 習熟度・母語は JNS による上位語・重要語との一致率に影響するか？

RQ4 習熟度・母語・個別漢語動名詞はそれぞれどのような関係にあるか？

すでに述べたように、RQ1～3 では、いずれも、習熟度影響と、母語影響の 2 つの観点を調査し

ていく。この点について、分析に先立ち、先行研究の知見をふまえた仮説を示しておきたい。

まず、習熟度影響に関して、鄧(2020)の調査によると、CLJ が習熟度の上昇に伴い、発話における漢語の使用量と多様性についてまずは低下し、中級以降は上昇しており、語彙難度については徐々に増加していることがわかった。張(2021)の調査によると、上級 CLJ の作文における使用した漢語動名詞の総語数は中級 CLJ の総語数よりも多いが、種類が少なく、中級 CLJ のほうがより難度が高い漢語動名詞が多用していることがわかった。以上をふまえ、本研究は、漢語動名詞の使用量・多様性について、習熟度が上がれば上昇し、JNS に接近すると予想される。漢語動名詞の語彙難度・一致率について、習熟度が上がれば上昇するが、JNS とのずれが大きいと予想される。

次に、母語影響に関して、李(2016)によると、CLJ が作文において漢語動名詞の使用量と多様性は JNS よりかなり多いが、JNS はより日常的な漢語動名詞を多用していることがわかった。また、漢字知識を有する CLJ であっても、使用した上位語と JNS が使用した上位語との一致率は極めて低いことがわかった。鄧(2020)の調査によると、CLJ と KLJ が発話において漢語の使用量と種類数はほぼ同じ、ELJ と JNS とのずれが最も大きいことがわかった。一方で、KLJ と JNS との上位語一致率が最も高いものの、60%にしか達しておらず、中級学習者が使用した漢語は JNS に比べて大きなずれがあるということがわかった。以上からわかるように、漢字知識を有する CLJ と一定の漢字文化の影響を受けている KLJ であっても、漢語や漢語動名詞を使用する際に、JNS とのずれが存在し、逸脱している語を使用する可能性がある。そこで本研究では、漢語動名詞の使用量・多様性・語彙難度について、CLJ と KLJ とともに JNS に近づくが、ELJ と JNS とのずれは大きいと予想される。上位語の一致率について、CLJ・KLJ・ELJ とともに JNS とのずれが大きいと予想される。

一方、RQ4 では、他の RQ とは異なり、習熟度・母語・個別漢語動名詞の相互関係のモデル化を行うわけであるが、鄧(2020)の調査によると、中級レベルの KLJ の漢語使用パターンは JNS の漢語使用パターンと最も接近しているが、CLJ の漢語使用パターンは JNS と最も離れており、習熟度の上昇につれて少し内容的な変化があるものの、JNS にまだずれが存在していることがわかった。それをふまえ、3 つの学習者グループの漢語動名詞使用パターンが学習者の習熟度段階の変化につれて JNS に接近しているが、いずれもずれが存在していることが予想される。

3.2 データ

3.2.1 使用するコーパス

本研究は前述の「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(I-JAS: International Corpus of Japanese As a Second Language)を使用する。I-JAS は、迫田久美子氏とそのチームが中心となって構築された大規模学習者コーパスである。I-JAS の主要特徴として、(1) 12 種の言語を母語とする多様な学習者 1,000 名のデータを集めており、従来の学習者コーパスに比べて大量なデータを集めていること、(2) 学習者の背景情報を詳細に調べていること、(3) 学習者全員に同じ日本語能力テストによるレベル判定を行っていること、(4) タスク

のバリエーションが豊富であること、(5) 同一の学習者による発話と作文を備えたデータを集めていること、(6) 中納言を用いて検索できること、という 6 点が挙げられる。また、I-JAS で実施している 7 種のタスクのうち、本研究では、発話データ量が最も多く、自然会話や日常会話に最も近いと考えられる「対話」タスクのデータを絞って分析を行う。

「対話」タスクは学習者と日本語母語話者である調査実施者が自然な会話を 30 分程度で行うものであり、発話タスクの中で中心的なものである。当該タスクは学習者間のデータ比較が行いやすくなるよう、7 種のトピック（全 15 の話題）を設定し、それに沿って会話をできる限り自然に進めるようにした。具体的な流れは以下の表 1 のようになる（迫田・石川・李、2020、p.38）。

表 1 I-JAS の「対話」タスクの流れ

トピック	話題の内訳
(1)ウォーミングアップ	ウォーミングアップ(天候の話など、リラックスする雰囲気作り)／昨日の 1 日の出来事
(2) 日本について	日本語学習の動機・日本に対する関心事について／日本のサブカルチャー
(3) 学習者の出身地について	出身地について／出身地の料理や食べ物や有名な産物／出身地の有名な観光地、推薦できる観光スポット
(4) 出身地の話題から過去の体験について	出身地の誕生日(伝統的行事)の祝い方
(5) 過去の体験について	幼少期の体験／これまで通った学校の好きだった先生の話／恐怖体験(幸福体験)の話
(6) 過去から将来へ	将来の進路や夢について／議論「都会に住むか、田舎に住むか」／議論「お金が大事か、時間が大事か」
(7)クールダウン	明日や今後の予定などを聞いて、激励の言葉を述べる

表 1 に示したように、7 種のトピックには、学習者本人に関わる過去、現在、未来についてだけでなく、意見陳述や反論などができるようなトピックも設定されている。なお、「日本について」というトピックでは、「日本語学習の動機・日本に対する関心事」を問うが、JNS には、これに代え、「趣味」や「今熱中していること」という質問を行った。この点を除けば、JNS と学習者に与えた質問は同じであり、全体として比較研究に適したデータとなっている。

3.2.2 本研究のターゲット

すでに述べたように、本研究では、CLJ の高頻度漢語動名詞の特徴が CLJ だけのものか学習者全般のものかを確認することを目指す。ここで考慮すべきは、CLJ 以外に、どのような学習者を調査対象に含めるかという点である。I-JAS には 12 種類の母語背景を持つ学習者のデータが

収録されているわけだが、この中には、学習者数の少ないものも多い。そこで、本研究では、世界の日本語学習者の大部分をカバーできるように比較対象を定める方針を取った。

表 2 は、国際交流基金(2018)の学習者調査による日本語学習者の分布情報をまとめた結果である。なお、英語圏については、I-JAS がデータを収集している 4 か国(アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド)に絞って人数を計算した。

表 2 日本語学習者の分布

母語	学習者数	比率
中国語 (中国、台湾を含む)	1,174,784	30.50%
韓国語 (韓国)	531,511	13.80%
英語 (英米豪 NZ)	624,884	16.22%
その他	1,520,595	39.48%

以上より、中国語・英語・韓国語の上位 3 種で、世界の日本語学習者の約 6 割を占めることがわかった。そこで、本研究では、これら 3 種の学習者を調査のターゲットとする。

なお、CLJ、ELJ、KLJ の 3 種の学習者を相互比較することには、漢字文化を有するアジア圏の日本語学習者 (CLJ、KLJ) と、漢字文化を持たない非アジア圏の日本語学習者 (ELJ) の直接的な比較が行えるという点で、研究上も意義を持つものである。

3.3 手法

3.3.1 本研究の習熟度の分類

I-JAS は学習者の言語能力を客観的に判断するため、J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test) と SPOT (Simple Performance-Oriented Test) という 2 つの言語テストを受験させている。J-CAT は言語知識を測定することを目的とし、その特徴として、インターネットベースであることや、項目応答理論 (Item Response Theory) という精緻なテストモデルに基づくアダプティブテストであることなどが挙げられる。一方 SPOT は、読み上げ文中の空所に入る平仮名を記入するというテストで、J-CAT と同じようにインターネットベースで、短時間で日本語の即時的運用力を測定することが可能である。I-JAS の学習者データを利用した過去の研究では、J-CAT の総合スコアに基づき習熟度段階を分類したものが多かったが、本研究は、学習者の日本語能力をより多面的にみとる観点から、J-CAT と SPOT の両方のスコアに基づいて、学習者の習熟度分類を行いたい。

J-CAT には、4 技能別 (聴解・語彙・文法・読解) のスコアがある。また、SPOT は単一のスコアである。これら 5 種のスコア情報を合成するには、通例、平均を用いるわけであるが、平均には、個々の変数を持つ単位情報と分散情報を無視して、すべての変数の重みを機械的に同列に扱うという問題点がある。5 種のスコアが持つ元の情報をできるだけ保存しながら、それらを効率よく合成する可能性を探るため、本研究は J-CAT と SPOT のスコアに対して主成分分析を試行した。その結果、第 1 主成分の寄与率が 74.4% であり、かつ、すべての変数にプラスの負荷量がかかっている

ことが確認された。つまり、第 1 主成分は、5 種のスコアのすぐれた代表値になっていることになる。なお、主成分負荷量は、SPOT が 0.905、J-CAT の語彙が 0.877、聴解が 0.867、文法が 0.849、読解が 0.812 である。この負荷量に基づき、個々の学習者の能力値を計算した上で、主成分得点によって、以下の 3 群に区分した。

表 3 本研究の学習者習熟度分類

習熟度	主成分得点	SPOT 平均スコア	J-CAT 総合平均スコア	CLJ	KLJ	ELJ	合計
初級	< -1	50.65	119.78	1	5	37	43
中級	≥ -1、< 1	67.11	202.15	135	42	61	238
上級	≥ 1	82.45	290.50	64	52	2	119

以上により、従前の先行研究よりも、幅広いデータに基づく習熟度の分類ができたことになる。

3.3.2 分析の手順

以下、RQ 順に研究手法を具体的に述べる。前述のように、RQ1～3 においては、いずれも、(母語を平均した上で)習熟度の差を確認した後、(習熟度を平均した上で)母語の差を確認する。また、RQ4 については、統計的手法を用い、習熟度・母語・個別の漢語動名詞の 3 者の関係性のモデル化を行う。以下、各々の手法について述べる。

RQ1(頻度系指標における習熟度・母語の影響)では、まず、タスク内で使用された漢語動名詞を「中納言」を用いて抽出する。検索条件として、キーを、語種が「漢」、かつ、品詞の大分類が「名詞」と設定した。さらに、後方共起として、語彙素の「為る」と設定した。次に、4 群(CLJ, KLJ, ELJ, JNS)ごとに、1 人あたりトークン数・1 人あたりタイプ数・語彙多様性指標 Guiraud R 値(タイプ/√トークン、以下、R 値)を計算する。

RQ2(語彙難度における習熟度・母語の影響)では、タスク内で学習者 3 群が使用した漢語動名詞の難度上の妥当性を検証する。その際、(1)タスク内で母語話者が使用した漢語動名詞、(2)現代日本語で一般的に多用される重要漢語動名詞 200 語(陳、in press)という 2 種類の比較基準を採用する。以上の 3 種のデータの語彙難度の推定に関しては、日本語文章難易度判別システム「jReadability」(李、2017)を使用する。これは、個々の語について、「日本語教育語彙表」の 6 つのレベルと級外レベルを表す 1～7 の難度値を出力するものである。

上述の (2) は、BCCWJ の内容別 65 変種および CEJC の場面別 7 変種、併せて 72 変種の言語資料で頻度調査を行い、平均頻度とレンジを手掛かりとして抽出したものである。内訳を表 4 に示す。

表 4 重要漢語動名詞 (重要度順)

利用	実施	使用	対応	紹介	確認	増加	発生	表示	作成	説明	参加	推進
発表	存在	理解	表現	期待	活用	注意	設定	設置	開催	減少	変化	購入
提供	比較	検討	結婚	選択	指定	展開	判断	入力	用意	検索	質問	確保
工夫	実現	評価	計算	開始	変更	発見	登録	注目	拡大	規定	導入	決定
相談	完成	指摘	勉強	構成	提出	移動	改善	保存	整備	解決	開発	整理

考慮	低下	安定	促進	維持	把握	登場	上昇	予想	成立	終了	反映	成功
形成	発展	販売	記載	報告	採用	記録	重視	發揮	意識	安心	認識	処理
撮影	配慮	練習	意味	削除	実行	生活	該当	集中	主張	達成	心配	無視
活躍	交換	連絡	観察	成長	分析	充実	強化	対処	継続	掲載	設立	適用
強調	経験	活動	失敗	支援	想像	努力	発達	提案	追加	発行	取得	学習
独立	調整	電話	更新	増大	卒業	加入	推移	吸収	代表	貢献	回答	我慢
調査	発売	一致	接続	派遣	希望	分解	保護	出席	分類	指導	反応	納得
悪化	解消	運転	印刷	進行	相当	準備	経過	違反	出品	反対	記入	感染
提示	証明	落札	到着	防止	放送	否定	演奏	改正	請求	応援	入院	出発
苦勞	訪問	通過	死亡	収集	表明	注文	策定	支給	制定	就職	批判	感謝
施行	所属	支配	共有	合格								

RQ3(上位語・重要語における習熟度・母語の影響)では、学習者各群が使用した漢語動名詞上位 20 語を抽出した後、これを、JNS が使用した上位 20 語、また、重要漢語動名詞 200 語と比較し、一致率を計算する。

RQ4(習熟度・母語・個別漢語動名詞の関係性のモデル化)では、CLJ、KLJ、ELJ の初級・中級・上級、JNS の全 10 群のうち、2 名以上の学習者が存在する 8 群(CLJ の中級・上級、KLJ の初級・中級・上級、ELJ の初級・中級、JNS)を第 1 アイテム、高頻度漢語動名詞 121 語を第 2 アイテムとする頻度表に対して対応分析を行う。なお、121 語は、全 8 群が使用した上位 50 語、計 400 語から重複を除いたものである。対応分析で得られた散布図を考察する際には、新たに、親密度(個々の語に対する母語話者のなじみ度)と意味分類の情報を加味する。これらの情報は、ともに、『分類語彙表増補改訂版データベース』(<https://cradle.ninjal.ac.jp/wlsp/>、以下、『分類語彙表 DB』と呼ぶ)から取得する。なお、『分類語彙表 DB』には、5 種の親密度(「知っている」+「書く」「読む」「話す」「聞く」の各々における親密度)の情報が収録されているが(浅原、2020)、本研究は発話データを扱うため、「話す」際の親密度と「聞く」際の親密度を平均化したデータを使用する。

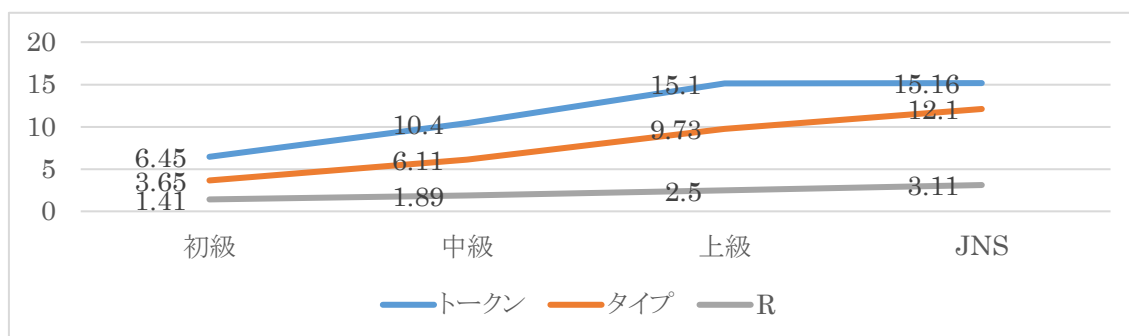
4. 結果と考察

4.1 RQ1 頻度系指標における習熟度・母語の影響

4.1.1 習熟度の差

ここでは、習熟度の差と、母語の差の 2 点を区別して議論を行う。まず、学習者の習熟度が漢語動名詞のトークン・タイプ・多様性に対して及ぼす影響について、以下の結果を得た。

図 1 習熟度の差による漢語動名詞頻度指標の違い



まず、トークンについては、ANOVA により、習熟度要因の主効果が有意であることが確認された ($F(3,6) = 18.660$, $p = .002$, $\eta_p^2 = .903$)。また、多重比較 (Holm 法) により、初級 (6.45) < 中級 (10.40) < 上級 (15.10) $\simeq$ JNS (15.16) という関係性が確認された。

次に、タイプについても、習熟度要因の主効果は有意で ($F(3,6) = 18.623$, $p = .002$, $\eta_p^2 = .903$)、多重比較により、初級 (3.65) < 中級 (6.11) < 上級 (9.73) $\simeq$ JNS (12.1) という関係性が確認された。

最後に、R 値についても、習熟度要因の主効果が有意であることが確認された ($F(3,6) = 10.532$, $p = .008$, $\eta_p^2 = .840$)。また、多重比較により、初級 (1.41) $\simeq$ 中級 (1.89) < 上級 (2.50) $\simeq$ JNS (3.11) という関係性が確認された。

以上より、学習者の習熟度が上昇すれば、使用する漢語動名詞の総語数と種類数は群ごとに上昇すること、多様性については初中級の差ははっきりしないものの、中級から上級にかけて上昇することが確認された。また、上級レベルの学習者が使用する漢語動名詞の総語数・種類数・多様性はともに JNS とは差がないことも確認された。このことは、(1) 習熟度上昇に伴う漢語動名詞の使用量の総体的上昇、(2) 3 観点の中で、語彙多様性の上昇の遅れ、(3) 上級学習者の漢語動名詞の使用量と多様性の JNS への近接、の 3 点を示している。仮説では、3 観点ともに上昇し、JNS に接近することを考えていたが、3 観点の中で、習熟度による上昇の影響が出やすいものと出にくいものが存在することが今回の分析で明らかになった。

以下、この点をさらに掘り下げるため、初級・中級・上級の学習者と JNS の同じトピックにおける実際の発話 (一部) を見てみよう。なお、学習者の用例は CLJ から取る。漢語動名詞には下線を付す (以下同)。

表 5 コーパスの実例 (1)

トピック：日本について 学習者：「日本語学習の動機・日本に対する関心事／日本語サブカルチャー」に関する質問 JNS：「今熱中していること」に関する質問	
初級	調査者：…日本語はどうして勉強し始めました？ 学習者：…〈うん〉うー、大学、大学から大学から日本語を勉強します。…あー大学で日本語を勉強しています… (CCM53-I-01290～CCM53-I-01340)

中級	調査者：えっと日本語は、あつといつから勉強を、なさいましたか？ 学習者：あ大学一入った後（あと）、勉強し始めます…本格的に日本語を勉強したいという…影響受けましたらー…ジャニーズの芸能人のえんじ（演技）したのは、たぶん十年前かな？ある（連体詞）先生と、あー先生と学生と一緒に恋愛したこと、恋愛したラブストーリー、なんですけどあも（もう）名前はちょっと忘れちゃって〈ふーん〉、松嶋菜々子？…松嶋菜々子えんじ（演技）したの、ドラマ、…先生はどうして学生と一緒に恋愛することは、(CCS41-I-00690～CCS41-I-01240)
上級	調査者：そういう日本に一、お、興味を持ったきっかけっていうのはー〈はい〉、どういような、ものですかー？ 学習者：…日本語のべん、自分で勉強して始めました…えー、活動しているグループです〈あー〉、…綾野剛と一新垣一、新垣一結衣、と、しゅ、主演した、主役したーえ、ドラマです…日本の友達からーしょうら、紹介していて、…えー、けが（怪我）をーしていました〈うん〉、はい、その（連体詞）けががー、てん、転一勤というかーまあ、他（ほか）の部門に一入りました、…異動されーましたからー (CCS08-I-00570～CCS08-I-01020)
JNS	JNS：本、古本で〈はい〉一万円ぐらいなんですそれがそれを購入して〈はい〉ようやくそれおととい届いたので〈はい〉開封してみたんですが、…掲載されている、ネットに掲載されてるものから買ったんですが、…そ掃除しながらこう磨いたりとうゆのをやっていました…別に本棚を用意していて一部屋ちゃんと確保していますんで〈はい〉かなりの数があります…えー流刑されて、…で後半部分は石油を発掘するとゆうところに持っていくんですが…形で形容、しておりました…人間的にもその商社マンとして成長しながら…いろんなものを解決しながら、(JJJ05-I-00600～JJJ05-I-00960)

まず、(1) 習熟度上昇に伴う漢語動名詞の使用量の総体的上昇に関して、上記の実例では、学習者の習熟度が初級・中級・上級と変化するにつれて、延べ語数は 2 語→8 語→9 語、異なり語数は 1 語→4 語→8 語のように上昇していることが確認された。

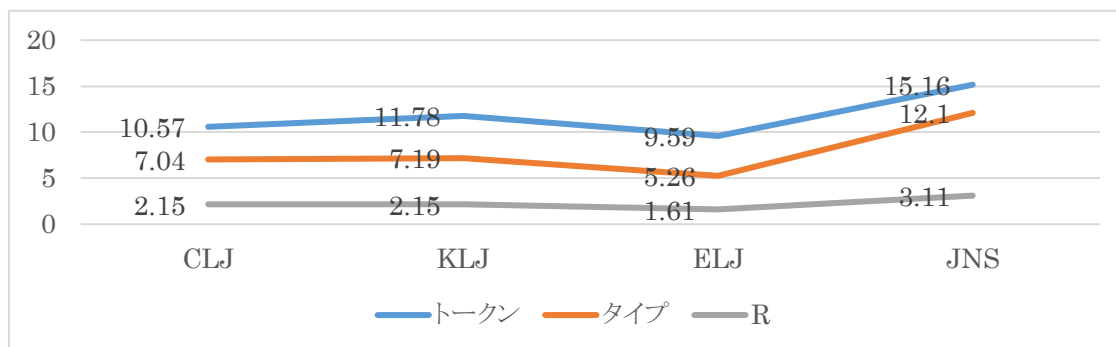
次に、(2) 3 観点の中での語彙多様性の上昇の遅れに関して、実例データで言うと、初級・中級・上級に変わるにつれて、R 値は 0.70→1.41→2.67 のように変化している。初級から中級にかけては 71%の増加だが、中級から上級にかけては 125%の増加となっており、R 値の上昇が中級以降に起こることが改めて確認された。

最後に、(3) 上級学習者の漢語動名詞の使用量と多様性の JNS への近接に関しては、すでに (1) に関して述べたように、上級者の延べ語数・異なり語数は 9 語と 8 語であり、これは、母語話者の 12 語と 11 語に非常に近づいている。

4.1.2 母語の差

続いて、学習者の母語が漢語動名詞のトークン・タイプ・多様性に対して及ぼす影響について、以下の結果を得た。

図 2 母語の差による漢語動名詞頻度指標の違い



まず、トークンについては、ANOVA により、母語要因の主効果が有意ではないことが確認された ($F(3,6) = 0.483$, $p = .706$, $\eta_p^2 = .194$, ns.)。次に、タイプについても、母語要因の主効果は有意でないことが確認された ($F(3,6) = 1.210$, $p = .384$, $\eta_p^2 = .377$, ns.)。最後に、R 値についても、母語要因の主効果が有意でないことが確認された ($F(3,6) = 1.821$, $p = .244$, $\eta_p^2 = .477$, ns.)。

以上より、学習者の母語は漢語動名詞使用の総語数・種類数・多様性には影響を及ぼさないことがわかった。仮説では、CLJ と KLJ はともに JNS に近づくが、ELJ と JNS とのずれは大きいということを推定したが、今回の分析ではこの仮説は支持されなかった。

以下は、レベルを中級にそろえた CLJ、KLJ、ELJ の発話実例の一部である。

表 6 コーパスの実例 (2)

「日本語学習の動機・日本に対する関心事」に関する質問 (中級レベル)	
CLJ	調査者：…日本語はどうして勉強し始めました？ 学習者：…〈うん〉うー、大学、大学から大学から日本語を勉強します。…あー大学で日本語を勉強しています… (CCM53-I-01290～CCM53-I-01340)
KLJ	調査者：…どうし、どうしてそもそも日本語勉強しようって思ったんですか？ 学習者：勉強始まった、その(連体詞)時はまあ中学校で日本語の授業がなかったの…あーと日本の推理小説が、ありますけど、そのきょごくすい(京極夏彦)…という〈えー〉推理小説…日本の妖怪と関連した事件の…そこに関連した事件が起こってそれを解決するまあそんな内容です…今の推理小説の〈うん〉、(KKD04-I-00450～KKD04-I-00880)
ELJ	調査者：ところで今は日本語で話してるので、〈はい〉この日本語の勉強は、あの、どう、どうして始めたんですか？いつ頃から、始めたんでしょう 学習者：…まあ私日本語勉強しよっかなー〈うん〉、…その(連体詞)人の言語を勉強すると、…とりあえず独学で〈ほー〉、よんねんかん(四年間)ぐらい勉強してから、…の日本語勉強しても大丈夫ですって言われて…授業に入りました…他(ほか)の国の人と相談すると、…あの一考えてる人と〈ふーん〉あの一、相談すると、いろいろ勉強になる、〈はい〉と思いますので〈ふーん〉、うんその(連体詞)せい、で〈うん〉続けています、日本語の勉強 (EAU15-I-00410～EAU15-I-00620)

上記の実例から見られるように、CLJ・KLJ・ELJ の延べ語数についてそれぞれ 8 語・8 語・10 語であり、異なり語数についてそれぞれ 4 語・5 語・4 語であり、また、R 値について、それぞれ 1.41・1.76・1.26 であり、互いに非常に近づいている。このことより、学習者の母語は、漢語動名詞

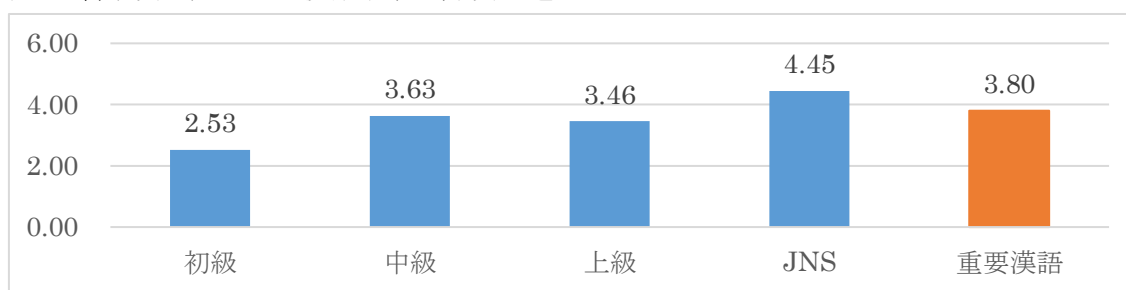
の総語数・種類数・多様性に影響を及ぼさないことが確認された。

4.2 RQ2 語彙難度における習熟度・母語の影響

4.2.1 習熟度の差

4.1 と同様に、習熟度の差と、母語の差の 2 点を区別して議論を行う。まず、学習者の習熟度が漢語動名詞の語彙難度に対して及ぼす影響を考えたい。なお、この分析では母語話者の基準データとして、コーパスから得られた語彙難度だけでなく、陳 (in press) で抽出された重要漢語動名詞 200 種の平均語彙難度の情報を参考として示すこととする。なお、参考データとしての重要漢語を併せて示す場合は、線グラフではなく棒グラフを用いる。

図 3 習熟度の差による漢語動名詞難度の違い



語彙難度については、ANOVA により、習熟度要因の主効果が有意であることが確認された ($F(3,6) = 11.031$, $p = .007$, $\eta_p^2 = .847$)。また、多重比較 (Holm 法) により、初級 (2.53) < 中級 (3.63) < 上級 (3.46) < JNS (4.45) という関係性が確認された。

以上より、学習者の語彙難度は初級から中級にかけて上昇しているが、中級になると安定しており、JNS の語彙難度に到達しなかったことが確認された。すなわち、語彙難度に関しては、学習者が中級になると、漢語動名詞の使用にある種の上限が存在していることが明らかになった。また、図 3 からわかるように、中上級学習者の語彙難度は JNS との間にずれがあるものの、重要漢語に接近している。このことより、習熟度上昇に伴う語彙難度について、学習者と JNS が実際の対話で使用する語との間にずれが存在するが、一般的な漢語動名詞の難度基準に到達することが確認された。仮説では、学習者の習熟度の上昇につれて、語彙難度が上昇するが、JNS とのずれが存在していることを考えていたが、今回の分析はこの仮説が支持された。

以下は、実例 (1) で出現した漢語動名詞の語彙難度レベルを示した。

表 7 コーパスの実例 (1) の語彙難度

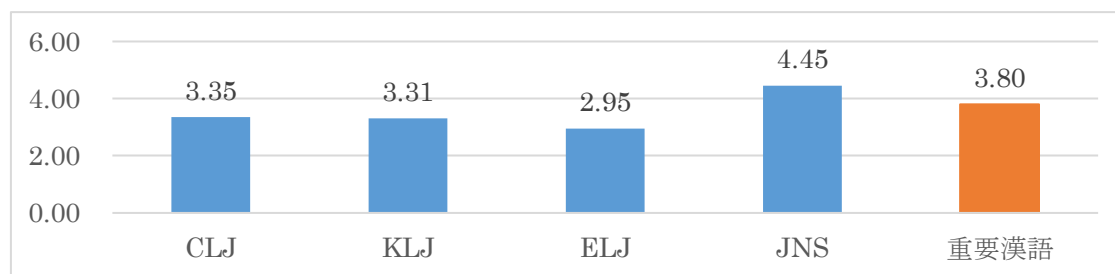
	漢語動名詞および語彙難度レベル
初級	勉強 1
中級	勉強 1、影響 4、演技 4、恋愛 4
上級	勉強 1、活動 3、主演 4、主役 4、紹介 2、怪我 3、転勤 4、異動 5
JNS	購入 4、掲載 5、確保 4、流刑 7、発掘 5、形容 4、成長 4、解決 4

上記の実例では、学習者の習熟度が初級・中級・上級と変化するにつれて、使用した漢語動名詞の平均難度は1→3.25→3.25であり、初級から中級にかけて上昇したが、中級になると安定していることが改めて確認された。また、中上級レベルの学習者の漢語動名詞の平均難度はJNS（4.2）よりも低く、JNSとの間にはずれがあることも確認された。さらにコーパスの実例を調査すると、JNSは、「掃除」「用意」などのような日常生活に関する語の他、文学作品・ドラマ・映画の内容や自分の幼少期の体験に関する特定の話題の発話において「発掘」「流刑」「割愛」「完食」「着服」「（感情）移入」「入選」などのような難度が高く、書き言葉的な語も使用していることがわかった。中上級学習者であっても、一般的な話題の対話において、母語話者とほぼ同じ難度の漢語動名詞を使用することができるが、特定の話題について発話する際に、日本語知識の不足に制約されるので、母語話者と同じ難度レベルには到達できない。

4.2.2 母語の差

続いて、学習者の母語は使用した漢語動名詞の語彙難度に対する影響について、以下の結果を得た。

図4 母語の差による漢語動名詞難度の違い



語彙難度については、ANOVAにより、母語要因の主効果が有意ではないことが確認された（ $F(3,6) = 1.367$ 、 $p = .340$ 、 $\eta_p^2 = .406$ 、ns.）。すなわち、学習者の母語は漢語動名詞の語彙難度に影響がないことが確認された。仮説では、CLJとKLJはともにJNSに近づくが、ELJとJNSとのずれは大きいと推定されたが、今回のデータはこの仮説が支持されなかった。

以下は、実例（2）で出現した漢語動名詞の語彙難度レベルを示した。

表8 コーパスの実例（2）の語彙難度

	漢語動名詞および語彙難度レベル
CLJ	勉強 1、影響 4、演技 4、恋愛 4
KLJ	勉強 1、授業 1、推理 4、関連 4、解決 4
ELJ	勉強 1、独学 4、授業 1、相談 3

上記の実例では、CLJ・KLJ・ELJ が使用した漢語動名詞の平均難度はそれぞれ 3.25・2.25・2.8 であり、同じ質問に対して答えを返すという制約な環境であれば、漢語動名詞の語彙難度の差は必ずしも明確ではないことが示唆された。

4.3 RQ3 上位語における習熟度・母語の影響

4.3.1 習熟度の差

各学習者グループが使用した上位 20 位の漢語動名詞を、JNS が対話タスク内で使用した上位 20 語および現代日本語における一般の漢語動名詞(重要漢語)という 2 つの基準と比較する。まず、学習者の習熟度は使用した漢語動名詞の上位語に対する影響について、以下の結果を得た。

図 5 習熟度の差による漢語動名詞上位語の違い (JNS との一致率)

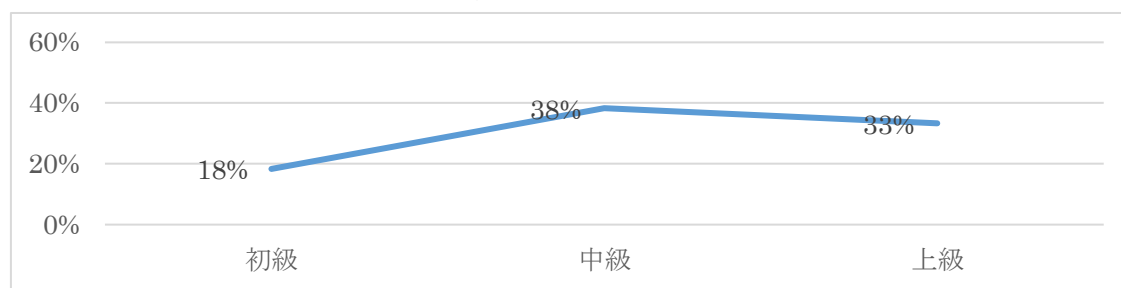


図 6 習熟度の差による漢語動名詞上位語の違い (重要漢語との一致率)

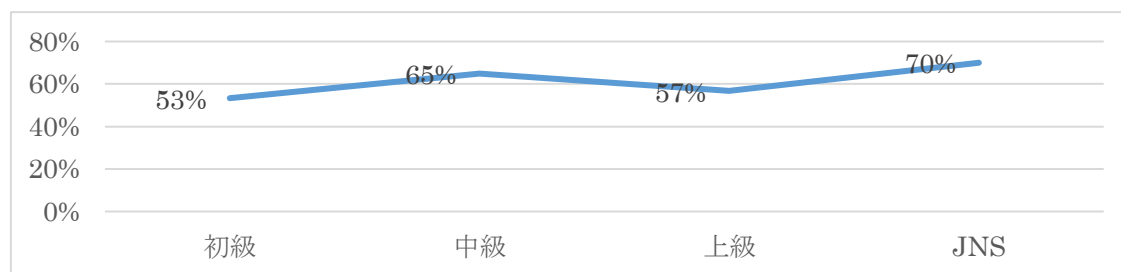


図 5 と図 6 からわかるように、初級・中級・上級と JNS 上位語との一致率については中級>上級>初級という順序関係になっており、また、初級・中級・上級・JNS と重要漢語との一致率については JNS>中級>上級>初級という順序関係になっている。これにより、確認されたことが 2 点ある。1 点目は、JNS を基準としても重要漢語を基準としても、学習者が初級から中級にかけて上位語一致率が増加しているのに対し、中級になるとやや減少していることである。2 点目は、JNS を基準とする場合、学習者の上位語一致率は 40% にも届かないのに対し、JNS 重要語を基準とする場合、その一致率は 65% に到達し、JNS とのずれがわずか 5% であることである。以上をふまえ、習熟度の上昇に伴い、学習者が一般的な漢語動名詞を多用するようになったが、JNS が実際の発話において使用する語に比べて、逸

脱している漢語動名詞を使用する可能性がある。仮説では、習熟度の上昇につれて上位語の一致率も上昇するということが推定されたが、今回のデータは全体として支持されなかった。なお、用例分析については、習熟度・母語・個別漢語動名詞の関係をモデル化する RQ4 の考察であわせて行いたい。

4.3.2 母語の差

学習者の母語は使用した漢語動名詞の上位語に対する影響について、以下のような結果を得た。

図 7 母語の差による漢語動名詞上位語の違い (JNS との一致率)

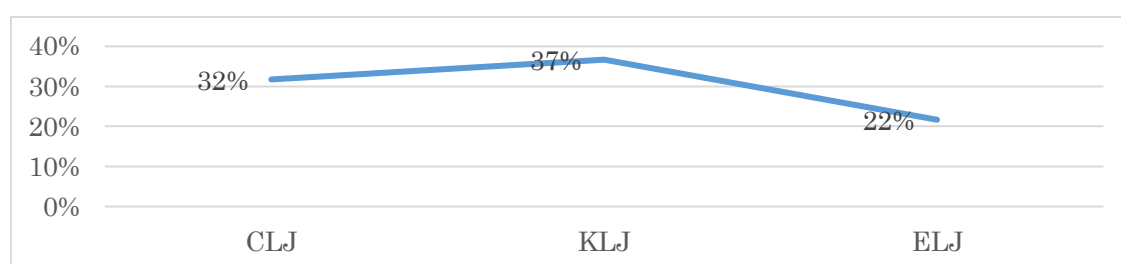


図 8 母語の差による漢語動名詞上位語の違い (重要漢語との一致率)

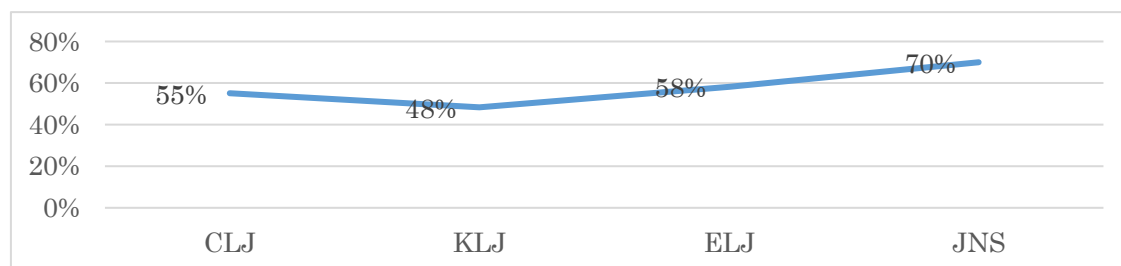


図 7 と図 8 からわかるように、CLJ・KLJ・ELJ と JNS 上位語との一致率は KLJ > CLJ > ELJ という順序関係になっており、CLJ・KLJ・ELJ・JNS 上位語と重要漢語との一致率は JNS > ELJ > CLJ > KLJ という順序関係になっている。また、重要漢語を基準とする場合、CLJ と ELJ の上位語一致率は 50% 以上に到達しているのに対し、JNS を基準とする場合、いずれの学習者グループの上位語一致率は 40% にも届かないことがわかった。仮説では、CLJ と KLJ はともに JNS に接近しているが、ELJ と JNS とのずれが大きいと推定されたが、今回のデータは全体として支持されなかった。

以上、各学習者グループが使用した上位漢語動名詞を量的に調査してきた。学習者は中級になると、一致率が上昇しにくくなることと、JNS の対話内で使用した上位語との一致率が低いことによって、上級レベルの学習者であっても、発話する際に逸脱している漢語動名詞を多用するのではないかと考えられる。この点についても、用例分析は、以下の RQ4 の考察であわせ

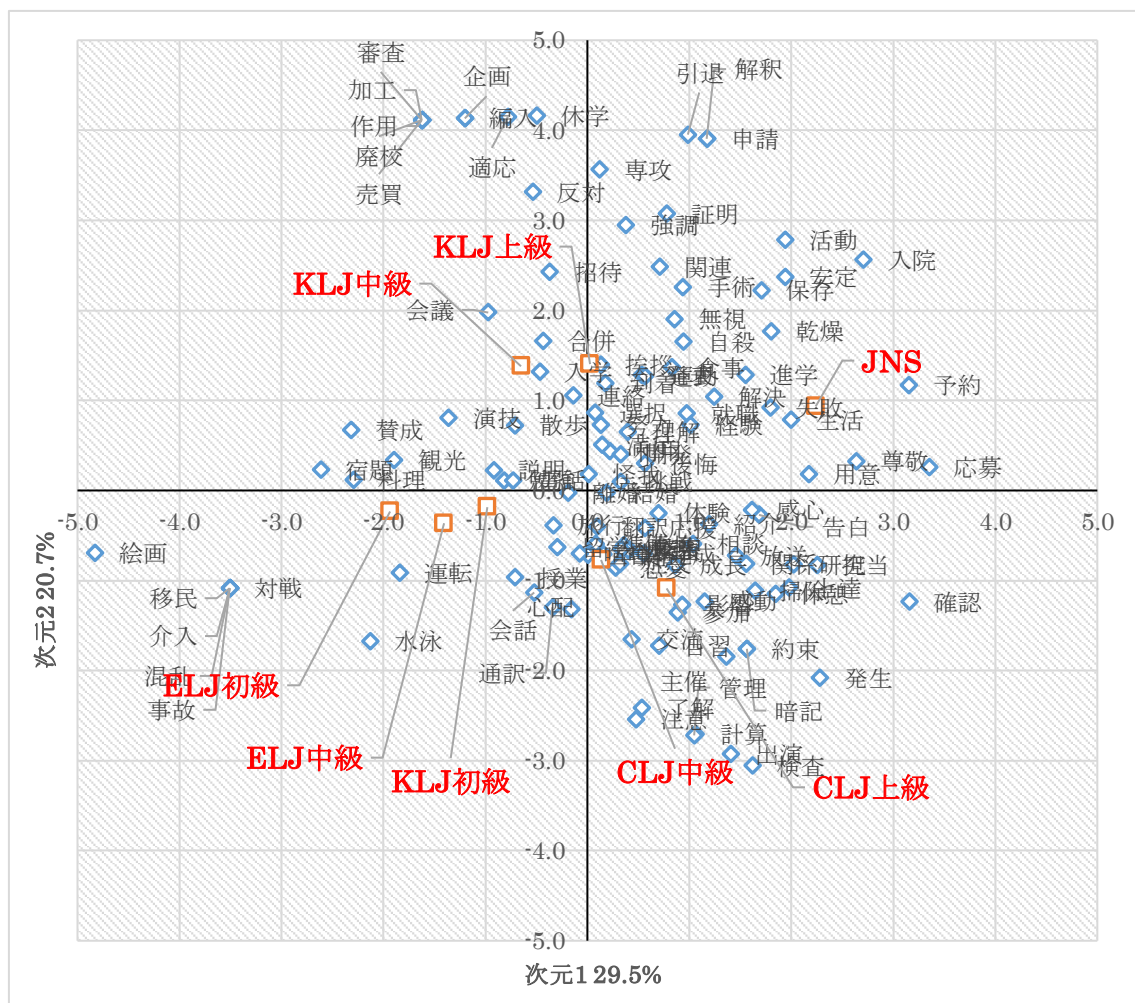
て行いたい。

4.4 RQ4 習熟度・母語・個別漢語動名詞の関係性のモデル化

4.4.1 3要素の関係性

対応分析を実施した結果、以下のような散布図(図9)を得た。

図9 対応分析の結果



第1次元の寄与率は約29.5%、第2次元の寄与率は約20.7%であり、全体の分散の過半がこれらの2つの次元で説明されていることから、以下、この散布図に基づいて解釈を進める。

まず、優先軸となる次元1(横軸)に注目すると、右側にJNS、原点付近にCLJの中級・上級、KLJの中級・上級、左側にKLJ初級、ELJの初級・中級が布置されている。このことから、次元1は左から右にかけて、初級学習者・中上級学習者・母語話者を区別する軸になっていると解釈される。

次に、次元2(縦軸)に注目すると、下方にCLJ、原点付近にELJ、上方にKLJとJNSが布置

されている。KLJ の初級が例外となるものの、全体として見れば、次元 2 は下方から上方にかけて、CLJ、ELJ、JNS+KLJ を区分する軸になっていると解釈される。次元 1 が学習者の習熟度の差を示す軸であるのに対し、次元 2 はむしろ学習者の母語の差を強調する軸になっていると思われる。

各軸における、学習者の位置づけは、興味深い示唆をもたらしてくれる。まず、習熟度の差を表す第 1 軸について言うと、初級から中上級にかけて次第に母語話者に近接しているが、一方で、中級と上級の差は必ずしも明らかではない。このことは、学習者の漢語知識は、初級から中級にかけて確実な伸びを見せるものの、中級以降の伸びは制約的で、ある種の頭打ちの状態になっている可能性を示唆する。加えて、3 つの学習者群を比較すると、ELJ の伸びが他より制約されているように見える。これは、ELJ 中級の位置が、他の中級学習者の位置より左になっていることから確認できる。仮説では、学習者は習熟度の上昇につれて JNS に接近しているが、いずれもずれが存在していること予想したが、今回のデータはこの仮説が支持された。

続いて、母語の差を表す第 2 軸について言うと、下方から上方へ、CLJ→ELJ→JNS+KLJ の順に母語が変化している。同じアジア圏に属しているが、部分的な漢字知識があると推定される KLJ は豊富な漢字知識を持っている CLJ よりも JNS に近接していることが確認された。KLJ と JNS が使用する漢語動名詞は、「到着」「宿題」などのような和製漢語が多く、CLJ が使用する漢語動名詞は「影響」「参加」などのような日中同形語が比較的に多い。また、漢字知識を持っていない ELJ が使用する漢語動名詞は、「混乱」や「事故」など、現代中国語では一般的に動詞として使用できないものも多く、CLJ が使用する漢語動名詞は「注意」や「管理」など、現代中国語でも動詞として使用できるものが多い。このことから、発話における漢語動名詞の使用について、CLJ は KLJ や ELJ よりも母語からの影響を受けていると考えられる。

今回の結果は、「習熟度の差が有意で、母語の差は有意でない」という 4.1.2 および 4.2.2 の分析の結果と、一見、矛盾しているように見えるが、このことは、処理手法の差に影響していると考えられる。4.1.2 と 4.2.2 の分析では、一方の要因を統制して(平均化)他方の要因の有意性を調査した。それに対し、対応分析では、両方の要因を 2 つのアイテムとして同時に分析を行った。2 つの調査の結果より、習熟度と母語は相手側要因を統制した環境では習熟度の影響の方が大きいものの、それぞれを独立して見ると、ともに漢語動名詞使用に一定の影響を及ぼしている可能性が示唆されたことになる。

最後に、散布図で区分された話者群と、それらが優先的に使用する漢語動名詞の関係を整理しておきたい。図の右上を第 1 象限、以下、時計の逆回りに第 2、第 3、第 4 象限と称すると、各象限には以下の話者および漢語動名詞が入る。なお、KLJ の上級は第 1 象限と第 2 象限の境界に布置されているが、ここでは第 2 象限に含める。

表 9 各話者グループで顕著に使用される漢語動名詞

象限	話者グループ	漢語動名詞
1	JNS	引退 申請 解釈 専攻 証明 強調 活動 入院 関連 安定 手術 保存 無視 乾燥 自殺 挨拶 食事 進学 発表 運動 到着 予約

		解決 失敗 選択 就職 生活 経験 努力 理解 満足 利用 開発 尊敬 後悔 応募 用意 怪我 挑戦 (39 語)
2	KLJ 中上級	休学 適応 編入 企画 売買 審査 作用 加工 廃校 反対 招待 会議 合併 入学 連絡 演技 散歩 賛成 観光 宿題 説明 料理 電話 勉強 (24 語)
3	ELJ/KLJ 初中級	離婚 旅行 留学 絵画 喧嘩 運転 授業 事故 混乱 介入 対戦 移民 会話 通訳 心配 水泳 (16 語)
4	CLJ 中上級	結婚 感心 体験 告白 紹介 翻訳 応援 準備 相談 交換 感謝 練習 緊張 完成 合格 卒業 放送 注文 関係 研究 担当 成長 恋愛 上達 掃除 休憩 感動 確認 影響 参加 交流 自習 暗記 約束 主催 発生 了解 注意 計算 管理 出演 検査 (42 語)

以上で、漢語動名詞の使用において、4 つの話者グループは、それぞれ、独立的な位置を占めていることが確認された。この点をふまえ、続いて、各グループを特徴づける漢語動名詞について、『分類語彙表 DB』所収のデータを参照し、母語話者判断に基づく親密度と、意味タイプを調べたい。調査の結果は、以下ようになった。なお、意味の小分類については上位 3 種を示すこととするが、同列のものが複数ある場合はそれも含めて記載する。

表 10 各話者グループの特徴漢語動名詞の親密度・意味タイプ

話者グループ	親密度平均 (話す／聞く)	意味タイプ (大分類)	意味タイプ (小分類、上位 3 種)
JNS	1.09／1.18	活動 (80%) 関係 (17.8%) 自然 (2.2%)	認知活動 (33.3%) 生活活動 (17.9%) 作用・変化 (10.3%)
KLJ 中上級	0.84／0.97	活動 (70.8%) 関係 (29.2%)	認知活動 (17%) 生活活動 (17%) 作用・変化 (17%)
ELJ/KLJ 初中級	0.68／0.86	活動 (68.8%) 関係 (25%) 主体 (6.2%)	生活活動 (25%) 作用・変化 (13%) 付合い活動 (13%) 言語活動 (13%)
CLJ 中上級	1.10／1.19	活動 (83.3%) 関係 (16.7%)	認知活動 (40.5%) 生活活動 (9.5%) 作用・変化 (9.5%)

上表で示したように、親密度の平均値は、CLJ 中上級が最も高く、CLJ 中上級>JNS>KLJ 中上級>ELJ/KLJ 初中級という順序関係になった。発話に限って言えば、母語話者と CLJ 中上級のほうがより日常的でくだけた漢語動名詞を使用し、KLJ 中上級と ELJ/KLJ 初中級のほうがより非日常的でかたい漢語動名詞を使用していることになる。

次に、意味分類については、大分類と小分類がある。大分類は、全部で 5 種(関係・主体・活動・生産物・自然)存在するわけであるが、上位 2 種が、活動>関係であるという点においては、4 つのグループはそろっている。しかし、5 種のうち、いくつが使用されているかという点では、違いも見られる。JNS は、3 種を使用しているが、ELJ/KLJ 初中級は 3 種、CLJ 中上級と KLJ 中上級は 2 種しか使用できていない。この点に限って言えば、漢語知識を有する CLJ であっても使用できる

漢語動名詞の意味タイプが想像以上に狭い可能性を示す。

一方、小分類については、グループ間の差異がより大きく観察された。このうち、JNS は、認知活動＞生活活動＞作用・変化の 3 種を多用している。これら 3 種を同様に多用しているのは CLJ 中上級と KLJ 中上級であったが、それぞれの割合が大きく異なっている。学習者が使用できる漢語動名詞の細かい意味タイプもある程度で制約されていることが確認された。

4.4.2 用例の質的検討

本節では、学習者の実例を観察する。実例から見ると、発話における学習者の使用した漢語動名詞には、(1) 一部の語について、学習者と JNS との間で、類義語の使い分けパターンが異なっていること、(2) CLJ は日中両言語での類義漢語を混用していること、(3) ELJ はサ変できない漢語をサ変して使用していること、などの問題点が存在することがわかった。学習者が逸脱している漢語動名詞を多用していることが示唆された。それぞれについて詳しく見てみよう。なお、関連表現には下線を付す。

表 11 コーパスの実例(3)

「出身地の誕生日の祝い方」の話題における「準備」と「用意」	
JNS	①調査者：へー、何か(なにか)、プレゼントとかもあつたんですか JNS:あ、はい、みんなプレゼントも用意してくれていて… <u>ケーキとかも〈うんうん〉用意してくれたので(JJJ21-I-01410～JJJ21-I-01440)</u> ②JNS:ケーキ用意してー 調査者:今から、今思えばー JNS: <u>お食事用意して…お菓子、ポテトチップ〈へー〉、定番の、が用意してあって…(JJJ46-I-03580～JJJ46-I-03640)</u>
CLJ	③学習者：…母が、うん、ケーキを買って、そして、 <u>プレゼントも用意してー(CCS48-I-02360)</u> ④調査者：あーそうですか、んで(それで)、小さい時はでもあの、お父さんやお母さんから何(なに)か 学習者：えーとたん、あーばすて(バースデー)ケーキ、 <u>きを準備します…えーとーバースデーケーキを準備して(CCH17-I-02970～CCH17-I-03040)</u>
KLJ	学習者：む一緒に、ちょっと母が <u>準備した食べ物〈はい〉一緒に食べてー(食べて)</u> 調査者：へーへー、じゃあお誕生日のパーティーを〈はい〉おうちでやるんですね(KKD06-I-03020～KKD06-I-03030)

まず、類義語の使い分けパターンについて、実例(3)から見ると、同じ「誕生日の祝い方」の話題において、「バースデーケーキ」「プレゼント」「食べ物／食事」に関する発話を行った際に、JNS は「用意」を使用しているのに対し、CLJ は、「用意」を使用している人もいれば(例③)、「準備」を使用している人もいる(例④)。KLJ は「準備」のみを使っており、ELJ はいずれも使っていない。現代日本語において、「準備」と「用意」は類義語であり、「準備」は必要なものをそろえるだけでなく、態勢や環境などといったことや長期的で大まかな計画をする意味でも使われる。一方、「用意」は「準備」よりも具体的であり、必要なものを事前にそろえることを強調している。CLJ や KLJ の「準備」の過剰使用について、「準

備」が日中同形語(“准备”)／日韓同音語(「준비」)であり、母語からの影響を受けやすいからだと考えられる。また、CLJ 向けの多くの日本語教材において、「準備」も「用意」も中国語で“准备”に翻訳しており、その使い分けについての具体的な説明がほとんどなく、これも CLJ が「準備」を過剰使用の原因の一つと考えられる。

次に、CLJ は日中両言語での類義語を混用していることと、ELJ はサ変できない漢語をサ変して使用していることについての事例を見てみよう。

表 12 コーパスの実例(4)

CLJ	日本の文化、が(うん)、あー <u>了解</u> したいです(です)(CCH10-I-00860)
ELJ	学習者:えーと、あ、うん、私の友達(うん)を、 <u>絵画</u> します 調査者:うーん、書きました？友達の絵を書きましたか？ 学習者:うん(EUS23-I-03620～EUS23-I-03640)

CLJ の発話における「了解」(中国語“了解”)という日中同形語は、日本語において「事情を思いやって納得すること」(『大辞林(第4版)』)を含意しており、中国語において人間・性格・社会・歴史などをはつきり知ること、または状況・原因・真相を調べることを含意している。日中両言語において、この2語の意味には似た部分もあれば、異なる部分もある。日本語の「了解」は一般的に「?歴史を了解する」「?文化を了解する」などのような表現では使いにくいことで、CLJ が産出した表現が不適切であると考えられる。

ELJ の発話における「絵画」は普通名詞であり、「する」を後続してサ変動詞として使われない。英語の「paint」は名詞としても動詞としても使われるため、ここでの誤用は母語からの影響があると考えられる。以上より、CLJ と ELJ が逸脱している漢語動名詞を使用している原因はともに母語からの影響によることが確認された。

5. まとめ

以上、本研究は I-JAS を利用し、日本語学習者の発話における高頻度漢語動名詞の使用実態を調査した。以下、本研究で得られた知見を整理して示しておく。

まず、RQ1(頻度系指標における習熟度・母語の影響)に関して、(1)学習者の習熟度によってトークンとタイプが段階的に増加すること、(2)語彙多様性は初中級の差はないものの中級以降に上昇すること、(3)学習者の母語の影響は制約的であること、の3点が確認された。

次に、RQ2(語彙難度における習熟度・母語の影響)に関して、(1)学習者の習熟度によって語彙難度ははつきり上昇しないこと、(2)上級学習者の語彙難度は重要漢語動名詞200語の平均難度レベルに達すること、(3)しかしコーパスに収録された同一の対話タスク内で母語話者が使用する語彙難度には達しないこと、(4)学習者の母語の影響は制約的であること、の4点が確認された。

続いて、RQ3(上位語における習熟度・母語の影響)に関して、(1)母語話者との一致率は初級から中級にかけて上昇するが、その後上昇が見られなくなること、(2)上級の学習者であっても逸

脱的な漢語動名詞を長期にわたって多用する可能性があること、の 2 点が確認された。

最後に、RQ4 では、8 種の話者グループが使用した特徴漢語動名詞に関して、(1) 学習者の漢語知識は初級から中級にかけて増えるものの、中級以降に伸びが制約されること、(2) CLJ は KLJ や ELJ よりも母語からの影響を強く受けていること、(3) 日常性について、CLJ は JNS に極めて近接しているが、使用できる漢語動名詞の意味タイプが想像以上に制約されていること、(4) 学習者は逸脱している漢語動名詞を使用していること、の 4 点が確認された。このうち、(2) に関して、RQ1～RQ2 では母語の差がないという結論が得られたのに対し、ここでは差が検出された。この違いは、分析手法の差に起因する。RQ1～RQ2 では、母語影響と習熟度影響をそれぞれ独立した要素として比較したわけだが、この比較では、母語影響は習熟度影響より限定的であった。一方、RQ4 の対応分析では、母語と習熟度を同列に比較し、同一平面上に布置した。この場合、両者がそれぞれ異なる形で影響を及ぼしていることが示唆されたのである。

ここで、本研究の対象となる CLJ 向けの日本語漢語指導の方向性について考えてみたい。まず指摘すべきは、漢語知識を有する CLJ は、ELJ、KLJ に比べると JNS との距離が小さく、その意味において漢語習得は他の学習者より有利であると言える。ただし、CLJ 上級と JNS の差は大きく、一般的な学習だけでは JNS の漢語使用に到達する見込みは薄い。この点をふまえると、JNS が特徴的に使用する漢語動名詞、すなわち、(1) 漢語を構成する形態素を日本で独自に組み合わせたもの（和製漢語）、(2) 現代中国語で動詞として使えないもの、(3) 自然物及び自然現象を表すもの、などのような性質を有する漢語動名詞を多く取り出して、明示的・暗示的指導で親しませていくことが重要であると言えるだろう。次に考慮すべきは、CLJ は他の学習者との異質性を有するものの、共通性も多いということである。すなわち、漢語指導の教材・教授法の開発については、幅広い学習者に共通の内容と、とくに CLJ に特化した内容を組み合わせ、段階的に提示していくことが有効であると考えられる。

もっとも、本研究には、残された課題も多い。とくに、(1) 対話タスクの質問内容・回答内容が厳密なレベルで統制されているわけではないことと、(2) 初級の CLJ と上級の ELJ のデータ量が極めて少ないこと、の 2 点は重要な点であり、今後の研究でこれらを扱っていきたい。

引用文献

- 浅原正幸(2020)「Bayesian Linear Mixed Model による単語親密度推定と位相情報付与」『自然言語処理』, 27(1), 133-150.
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠(2010)『言語研究のための統計入門』くろしお出版.
- 河住有希子(2005)「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』, 7, 53-65.
- 国際交流基金(2018)『海外の日本語教育の現状 2018 年度日本語教育機関調査より』

(<https://www.ipf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/all.pdf>)

国立国語研究所(2004)『分類語彙表:増補改訂版』大日本図書.

迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬(2020)『日本語学習者コーパス I-JAS 入門: 研究・教育にどう使うか』くろしお出版.

迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子(2016)「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」『国語研プロジェクトレビュー』, 6(3),93-110.

張建華(2021)「中国人中上級日本語学習者コーパスによる漢語サ変動詞の習得研究」『日中語彙研究』, 11, 59-81.

陳毓敏(2002)「日本語二字漢字語彙とそれに対応する中国語二字漢字語彙は同じか。一台湾及び中国の中国語との比較」『言語文化と日本語教育』(お茶の水女子大学日本言語文化学会), 24, 40-53.

陳迪(2022)「書き言葉・話し言葉を含む 72 変種のコーパスデータの調査に基づく『重要漢語動名詞 200』の抽出の試み」『統計数理研究所共同研究レポート』, 456, 21-41.

陳迪(in press)「書き言葉・話し言葉コーパスデータに基づく高頻度漢語動名詞の品詞性の再考: 日本語教育の視点から」『言語資源ワークショップ 2022 発表論文集』.

鄧琪(2020)「中国語を母語とする日本語学習者の発話における漢語使用の実態—『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』を用いた調査—」『統計数理研究所共同研究レポート』, 435, 121-138.

文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局.

李在鎬(2017)『文章を科学する』ひつじ書房.

李楓(2016)「現代日本語漢語サ変動詞の構造と用法—コーパス研究の日本語教育への応用—」神戸大学博士論文.